

## 学校環境衛生活動調査及び優良校等の表彰を終えて

### 1 はじめに

本委員会では、幼児・児童・生徒及び職員の健康の保持増進、安全な学習環境の確保を図ることを目的に、学校環境衛生の実態と問題点を把握し、その対策を図るため、毎年「学校環境衛生活動調査」を実施している。また調査の結果、優れた取組を実践している学校を学校区分ごとに優良校、準優良校、努力校、奨励校（以下、優良校等という。）として表彰している。

優良校等は、岐阜県学校薬剤師会と協働して審査し、書類審査（一次審査）と実地確認（二次審査）により総合的に評価を行う。書類審査では、各学校から提出された「学校環境衛生活動調査票」を基に活動状況を点数化し、学校区分ごとに上位の学校を選出する。その上位校について、実地確認を行い、学校環境衛生活動に対する学校の管理体制、定期検査や日常点検の実施状況、不適合事例が発生した場合の対応状況などを総合的に評価した上で、優良校等を決定している。今年度より、優良校等の学校数は、学校区分ごとの調査対象学校数に応じた数を選出することに変更した。また、自校の調査結果については、再度システムにアクセスすると、設問区分ごとの合計得点が表示されるようになったため、強化が必要な分野がわかるようになった。

奨励校においては、表彰のために訪問するだけでなく、希望する学校へは県学校薬剤師会から指導者を派遣して助言をいただくなど、学校関係者との懇談の場を持った。

次からは、今年度の優良校等表彰の審査及び結果とあわせて、本調査から分析した学校環境衛生活動の取組状況について報告する。

### 2 結果及び考察

本年度の優良校等表彰一覧は、9ページに記載した。なお、過去3年間連続して優良校の表彰を受けた学校は、特選校として位置づけ、審査対象外としている。

表彰された学校は、比較的毎年上位に選抜されているところが多い。昨年の結果と比較すると今年度も準優良校から優良校へとステップアップしている学校が認められた。前年度に訪問した際に受けた助言について、確実に対応された結果と考えられる。

今年度、糸貫東幼稚園は3年連続の優良園受賞となり、次年度から特選園となる。平成25年に奨励園を受賞してから着実に力をつけ、またその活動が本巣市の幼稚園全体に広がったことで、幼稚園の部の上位は本巣市の幼稚園が多くを占めることとなった。地位全体のレベルアップに繋がったモデル的事例といえる。

今年度、実地確認で助言した内容を以下に示す。また、学校環境衛生活動調査の集計結果から今年度の傾向についても述べる。

#### (1) 実地確認において助言等を行った事例

実地確認において訪問した学校で、助言等を行った事例について、表1に示した。

例えば、教室等の環境の定期検査では、エアコンを使用している学校において、浮遊粉じん

検査が未実施の事例があり、機器整備等により検査を実施する必要があることを助言した。

また、今年度は、理科室や保健室で使用している薬品類の管理について、重点的に確認した。理科室の薬品の保管については、法定表示や薬品の転倒防止措置、特性に応じた保管、管理簿の記録方法、消火並びに流出防止用の砂の設置などに不備が見られた。また、不要となった薬品について適切に廃棄するよう助言した。保健室では、飲用する医薬品はほぼ見られなかったが、消毒薬や絆創膏などについて、管理簿を用いた使用期限の管理方法について助言した。

日常点検では、ネズミ・衛生害虫発生の有無、授業日ごとの飲料水設備の異常の有無について、点検記録を残していない事例が認められた。

全体として、学校環境を維持するために改善した方がよい点など、今後の活動がより充実した内容となるような助言を行った。これらの助言を改善の機会と捉えていただき、更なる活動に期待したい。

## (2) 学校独自の取組として評価できる事例

実地確認で訪問した学校において、学校独自の取組で学校環境衛生活動を有意義に進めている事例を表2に示した。

例えば、保健委員が行っている学校環境衛生活動について、その活動の意義を学校薬剤師が説明し、日頃の活動に興味を持たせている事例や、保健委員自身が活動のPR映像を作成し、また校内で放映することで、学校環境衛生について啓発している事例があった。

また、学校保健安全委員会の取組みとして、委員による校内視察を行っており、学校医等委員からアドバイスを頂くなど有意義な活動もあった。

表2の事例を参考とし、各学校でも活発な学校環境衛生活動が広がることを期待したい。

## (3) 学校環境衛生活動調査における集計結果の概要

平成30年度学校環境衛生活動調査集計結果の概要については、129～130ページに概要を示した。調査の集計では、回答状況、平均点、点数分布、地域の傾向、更には学校環境衛生活動において、法、基準及び通知等で活動が位置づけられている項目の合計点を基準点とした時の達成率について、表またはグラフで示した。

### ① 回答状況

幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、高等専門学校及び特別支援学校のうち、岐阜県学校保健会が調査対象としている計718校（分校や別校舎、定時制等はそれぞれ1校としている。）に調査を依頼した結果、710校から回答があり、回答率は99%であった。

※ 集計は次の学校区分ごとに実施した。

幼稚園、小規模小学校（6クラス以下）、中規模小学校（7～17クラス）、大規模小学校（18クラス以上）、中学校（義務教育学校を含む。）、高等学校（特別支援学校及び高等専門学校を含む。)

### ② 平均点

記述式の回答と実地確認の得点を除く420点満点に対する平均点は、幼稚園318点、小学校366点、中学校362点、高等学校359点であり、小学校、中学校でも若干の平均点の向上がみられた。

### ③ 点数分布

小学校、中学校は、400点台が10～30%であったが、300点台を含めると95～98%と前年度

と比べるとその割合が増えている。高等学校も、400点台が6%、300点台を含めると95%に至った。幼稚園では、400点台が20%、300点台を含めると55%で、他の学校区分より得点が低い、前年度と比べるとその割合が増えている。

#### ④ 地域の傾向

岐阜県内を6つの地域に分けた場合の平均点は、小学校、中学校、幼稚園では岐阜地域が高く、次が西濃地域であった。高等学校では飛騨地域の平均点が高く、次に岐阜地区、可茂地区の順であった。

#### ⑤ 学校環境衛生基準の達成率

学校環境衛生活動調査の中で、法、基準及び通知等で活動が位置付けされている項目の合計点を基準点（満点285点）とし、項目を意識付けする意味で基準点に該当する設問に「※印」をつけた。

学校区分ごとの基準点達成率90%以上の学校は、高等学校53%、小学校40～56%、中学校39%、幼稚園31%で、全体では43%（308校）と、昨年度の36%（265校）と比べて向上が認められた。

（基準点達成率90%以上の学校に対しては、岐阜県学校薬剤師会から優秀活動校として認定シールをいただいた。）

基準点における地域の点数分布については、合計420点満点の集計分布の結果とほぼ同様の分布となった。

#### ⑥ 検査項目別の特徴

定期検査の実施状況については、「教室の環境等」では、特に高等学校の実施率が高い。これは測定機器の整備や検査費用の予算措置がされていることによるものと考えられる。

項目別では、浮遊粉じん、気流、一酸化炭素、二酸化窒素の実施率がまだ低い。これは測定機器の未整備や検査費用の予算措置ができていないためであると考えられる。年2回実施が必要な検査でも、年1回実施の割合が多いため、測定機器の台数不足や実施者の認識不足等が原因と考えられる。

揮発性有機化合物やダニの検査については、実施率は非常に高い。飲料水やプール水の検査は、検査を委託することもあり、毎年継続して実施されていることから実施率は比較的高いものと考えられる。

日常点検の実施状況については、小学校、中学校の実施率が非常に高かった。

項目別では、飲料水やプールの施設設備の点検やネズミ・衛生害虫の点検が、授業日ごとの実施の割合がやや低く、実施者の認識不足等が原因と考えられる。

#### (4) 学校環境衛生活動調査WEB化による効果

平成27年度から実施した学校環境衛生活動調査のWEB化によって、優良校等を決定する作業時間の短縮化、調査結果項目の集計等の短縮等、また回答作業の効率化について、大きな効果が認められている。また、全データを集約できるため、各学校の実施状況が一目でわかるような資料が簡単に作成可能となった。

### 3 まとめ

今年度の調査結果を振り返ると、学校環境衛生活動の実施状況は、昨年に比べ少しではあるが向上が認められた。基準点の根拠となる項目を見える化したことで認識が向上し、得点の底上げに繋がっていると思われる。しかし、県全体としてみると、基準点を90%以上した学校が昨年度よりも

7%アップはしているものの、まだ 43%と半分にも満たない状況である。活動が活発な地域は、相変わらず岐阜及び西濃地域に偏る傾向にあるため、奨励校表彰を利用した優秀校の掘り起しや、奨励校の活動をその地域へ広めていくことが課題である。

調査内容を個別に見ると、定期検査や日常点検の一部検査が未実施の学校が存在することが改めて明らかとなった。特に定期検査では、「教室等の環境」の項目で一部未実施の学校があるとの結果となり、県学校保健会として、学校薬剤師会をはじめとする関係者と協力しながら、実施を働きかけるとともに、必要な測定機器の整備や予算措置については、県及び市町村教育委員会に要請していきたい。また、日常点検では、「施設・設備の点検」や「ネズミ・衛生害虫の点検」について、授業日ごとの実施が必要であることを啓発していきたい。

学校環境衛生活動調査のWEB化後、4年目を経過し、毎年システム改修を重ねた結果、入力ミスは減り、トラブルも少なくなった。また、学校は得点を設問区分ごとに確認できるようになり、自校の活動レベルをより詳細に把握できるようになった。調査結果についても、全データを基に、様々な集計ができるようになった、市町村教育委員会にとって有用なデータを集計し、改善点をまとめるなどして、定期検査の完全実施を目指したい。

また、今後も利用しやすく精度の高い調査とし、更には安全性を確保するため、セキュリティーレベルを上げるなどシステムの改良に努め、学校環境衛生活動のレベルアップに繋がる活動を推進していきたい。